

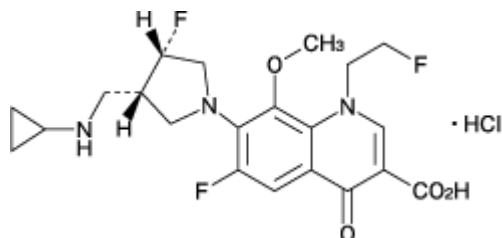
## ラスビック錠 75 mg, ラスビック点滴静注キット 150 mgについて

先の第 93 回薬事審議委員会で承諾されました, ラスビック錠 75 mg, ラスビック点滴静注キット 150 mg (杏林製薬株式会社) のご紹介です。

医薬品名：ラスビック錠 75mg 成分名：ラスクフロキサシン塩酸塩

英語名：Lasvic Tablets (Lascufloxacin Hydrochloride)

命名の由来：「Lascufloxacin、visionary and conceptual quinolone」から命名, 新しいビジョン (visionary) とコンセプト (conceptual) で開発されたキノロン系抗菌剤のラスクフロキサシンとのこと



<適応菌種>

本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ (ブランハメラ)・カタラーリス、クレブシエラ属、エンテロバクター属、インフルエンザ菌、レジオネラ・ニューモフィラ、プレボテラ属、肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)

<適応症>

咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、中耳炎、副鼻腔炎

用法・用量：通常、成人には、ラスクフロキサシンとして 1 回 75mg を 1 日 1 回経口投与する。

薬価：296.3 円/錠

ラスビック点滴静注キット 150 mg

適応菌種は、錠剤の適応菌種のほか、大腸菌、ペプトストレプトコッカス属、ベイヨネラ属、バクテロイデス属、ポルフィロモナス属、フソバクテリウム属が該当しております。


適応症は「肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染」となっており、咽頭・喉頭炎、扁桃炎 (扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、慢性呼吸器病変の二次感染、中耳炎、副鼻腔炎の適応はありません。

用法・用量は「通常、成人にはラスクフロキサシンとして、投与初日に 300mg を、投与 2 日目以降は 150mg を 1 日 1 回点滴静注する。」

薬価は 3962 円/キット

# 2024 年度新人研修より

6 月 19 日に 2023 年度新人研修において、ハイリスク薬の作用と管理と題して講話いたしました。



**薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業**  
**共有すべき事例**

調剤

**名称類似薬の取り違え**

2023年  
No.6  
事例1

**【事例の概要】**  
患者に一般名処方でクロベタゾン糖酸エステル軟膏0.05%が処方された。調剤者は誤ってクロベタゾールプロピオン酸エステル軟膏0.05% [MYK] を取り替えた。高用量は、薬剤が間違っていることに気付かず、クロベタゾン糖酸エステル軟膏0.06% [マイコク] を調剤し、患者に交付した。  
**【背景・原因】**  
忙しい勤務であり、名称が類似した薬剤をよく確認しないまま調剤した。  
**【薬局から報告された改善策】**  
名称が類似した薬剤の取り違えを注視喚起するため、薬剤棚に「要確認」と赤字で書いた札をつけた。

一般名処方の標準的な記載	ステロイド外用剤のランク*
【処】 クロベタゾン糖酸エステル軟膏0.05%	ミディアム (B群)
【処】 クロベタゾールプロピオン酸エステル軟膏0.06%	ストロングスト (1群)

\*アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2021  
皮膚科疾患の標準的な記載 - 一般名処方日本アレルギー学会  
アトピー性皮膚炎診療ガイドライン作成委員会 (発行2023年09月14日)  
[https://www.dermatol.or.jp/ufpoads/ufpoads/files/guideline/AOJL2021\\_220216.pdf](https://www.dermatol.or.jp/ufpoads/ufpoads/files/guideline/AOJL2021_220216.pdf)

●本事例は名称が類似した外用剤皮膚ステロイド剤の取り違えが起きた事例である。外用剤皮膚ステロイド剤には、本事例の組み合わせ以外にも、ベタメタゾン糖酸エステルプロピオン酸エステル (ベリーストロング) とベタメタゾン糖酸エステル (ストロング) など、名称が類似した薬剤が複数販売されており、薬剤によっては軟膏、クリーム、ローションなど異なる剤形も複数存在している。外用剤皮膚ステロイド剤が処方された際は、取り違えが起きやすいことを認識したうえで、名称を末尾まで確認し調剤を行うことが必要である。  
●2017年9月に独立行政法人医薬品医療機器総合機構よりPMDA医薬安全情報No.51「一般名類似による薬剤取り違えについて」\*が提供されている。このような情報を活用し、取り違えが起きやすい薬剤の組み合わせについて薬剤内で共有しておくことが有用である。  
\*<https://www.pmda.go.jp/files/000220059.pdf>  
●成分名が類似している外用剤皮膚ステロイド剤は、調剤時の取り違えだけでなく、処方時にも薬剤の選別間違いが起きる可能性がある。本事例には、クロベタゾールプロピオン酸エステル軟膏0.06%が処方された際に処方間違いが疑われたため疑難照会を行い、クロベタゾン糖酸エステル軟膏0.06%に変更になった事例も報告されている。

名称が類似している軟膏

先日の医療安全委員会の中で、インシデントレポートに挙げられたクロベタゾール軟膏とクロベタゾン軟膏の件です。

両薬剤ともにステロイド剤で炎症止めとして用いられます (Fig.1).



名称を最後まで読むとその違いは明らかとなりますが、名称の最初の3文字で捉えたと間違いのものとなります。これは電子カルテ等での検索においても同様で頭文字3つで検索すると類似の薬剤が多数出現するケースがあります。

Fig.2 にステロイド外用剤とその種類を示しました。

クロベタゾールは最も強力なステロイド剤に分類され、アトピー等の炎症反応が重篤な場合に用いられる劇薬 (文字が赤表示) です。一方クロベタゾールは比較的弱いステロイド剤とされ、顔や腿の内側等刺激を受けやすいところに使用される普通薬品 (文字が黒表示) の薬剤です。



Fig.2 ステロイド外用剤の種類と作用強度

当院における薬品の取り違えを例に、名称の類似している医薬品の取り扱いには十分注意することを認識いただいた。

## ★編集後記

今年も前半終了、あっという間の6か月でした。外国人が日本に観光をしに来るインバウンドは世間をにぎわせておりますが、薬はなかなかインバウンドとはいかず、海外で承認されている新薬が日本国内ではなかなか使えない現状があります。安全性を考慮してのこととは思いますが、救える命は救ってあげたいです。



薬剤科 野村明生